

集中豪雨・局地的大雨とは

「集中豪雨」と「局地的大雨」

「集中豪雨」は、同じような場所で数時間にわたり強く降り、100mmから数百mmの雨量をもたらす雨です。

一方、「局地的大雨」は、急に強く降り、数十分の短時間に狭い範囲に数十mm程度の雨量をもたらす雨です。

※ 「局地的大雨」は「ゲリラ豪雨」とも呼ばれます。

どのような点に気を付けておけばいいか

「集中豪雨」や「局地的大雨」の怖いところは、近くで降水量が少ないため「ここは大丈夫だろう」と安心してしまいがちであるという点です。

2008年7月に石川県で起きた集中豪雨では、1時間降水量が140ミリを記録した地域がある一方、その地域から20km程下流の金沢市内では1時間降水量が20ミリ程度に留まりました。しかし、金沢市内を流れる河川は、上流域の豪雨の影響を受け氾濫が起き、河川付近の居住地で多大な被害がありました。

このような被害を避けるためにも、以下のことを注意してください。

- ・ 自分がどのような地域に住んでいるか確認してください。
※ 窪地かどうか、河川流域なのか、付近の河川の氾濫歴など
- ・ ご自身の住んでいる地域のハザードマップを確認してください。
※ 加古川市・稲美町・播磨町は各市町のホームページで確認できます。
- ・ テレビやラジオ、インターネットなどで気象情報を調べて下さい。
※ 気象庁の「降水ナウキャスト」では、1時間先まで降水域の移動状況が10分単位で地図上に表示されます。

日頃から心掛けておくことはないか

- 1 日ごろから災害に備えましょう。
 - ・ 避難場所、避難経路を確認しましょう。
 - ・ 非常時持ち出す荷物を点検しておきましょう。
- 2 気象情報を入手できるようにしましょう。
 - ・ 最新の予報をチェック
- 3 危険を感じたら速やかに避難しましょう。
 - ・ 避難指示等が出たら速やかに行動しましょう。

参考【気象庁資料】

- **災害発生時に素早く行動できるように日頃から備えておきましょう。**
- **「自らの命は自ら守る」意識を持ち、すぐに避難行動をとれるようにしておきましょう。**